

眼科における肝炎ウイルス陽性患者の肝臓専門医受診勧奨の試み

研究分担者：井出 達也 久留米大学医学部内科学講座消化器内科部門 准教授

研究要旨：手術などに際して、HBs 抗原やHCV 抗体を測定することがあるが、陽性であっても説明されなかったり、肝臓専門医へ紹介されない例がある。そこで、とくに高齢者が多く肝炎ウイルス陽性率の高い眼科に注目し、専門医への受診を勧奨する方法を探った。数名の眼科医にインタビューしたところ、肝炎ウイルス陽性のときは患者に伝えているのみで、肝臓専門医への紹介はせず、かかりつけなどへ報告することはあるとのことであった。内科のかかりつけを乗り越えて肝臓専門医へ紹介することは困難との意見があった。そこで福岡県南部の筑後ブロック眼科医会幹事会へ、肝臓専門医への受診の重要性を説明したところ、今後同ブロック眼科医会を通して、肝炎ウイルス陽性者の肝臓専門医への受診勧奨を構築して行くことに理解が得られ、協力いただけることとなった。来年度は眼科医会の会員へ具体的に取り組みを行って行く予定である。

A. 研究目的

手術などを行う診療科では、HBs 抗原やHCV 抗体を測定することがあるが、陽性であってもそのまま説明がなかったり、肝臓専門医へ紹介されない例があると聞く。一方これまでの調査で眼科や整形外科などが高齢者も多く、肝炎ウイルス陽性率が高いことがわかっている。総合病院などにおける手術であれば、院内紹介で消化器内科へ紹介されることもあると思われるが、眼科は多くの開業医で手術を行うことから、専門医への紹介はしない症例が多いと推測される。そこで、眼科に注目し、専門医への受診を勧奨する方法を探った。

B. 研究方法

まず数名の眼科医にインタビューを行った。肝炎ウイルス陽性のときは患者に伝えたり、内科かかりつけなどへ報告することはあるが、肝臓専門医への紹介を行うことはないとのことであった。内科のかかりつけを乗り越えて肝臓専門医へ紹介することは医師同士の関係上、困難との意見があった。

次に福岡県南部の筑後ブロック眼科医会幹事会メンバーへ、肝臓専門医への受診の重要性を説明することとした。下記3枚の文書を準備し、肝臓専門医への受診の重要性を説明し、幹事会で検討していただくところ、眼科医会で協力いただける了承が得られた。

2020年10月 日

筑後眼科医会 御中

福岡県肝疾患相談支援センター長 井出達也
(久留米大学病院内)

ウイルス性肝炎患者の肝疾患専門医療機関への受診促進に関するご協力をお願い

謹啓 秋霜の候、ますますご清祥のこととお喜び申し上げます。
平素より福岡県肝疾患診療の推進にあたりましては、格別のご高配を賜り、厚く御礼申し上げます。

さて、久留米大学病院は福岡県で唯一の肝疾患診療連携拠点病院として福岡県肝疾患相談支援センターを開設し、講演会の開催、肝疾患医療コーディネーターの養成等、肝疾患の撲滅に取り組んでおります。

近年、C型肝炎・B型肝炎の抗ウイルス治療が目覚ましく進歩しておりますが、未だ治療を受けずに肝硬変、肝癌に進展している例が半数以上も認められます。

つきましては、筑後地区の眼科医会のお力添えを頂き、術前等にウイルス肝炎検査を実施する病院、クリニック等の先生や医療関係者を対象に受診促進のご協力をお願いしたい所存です。内容につきましては別紙をご参照の上、ご理解ご協力の程、よろしく御礼申し上げます。

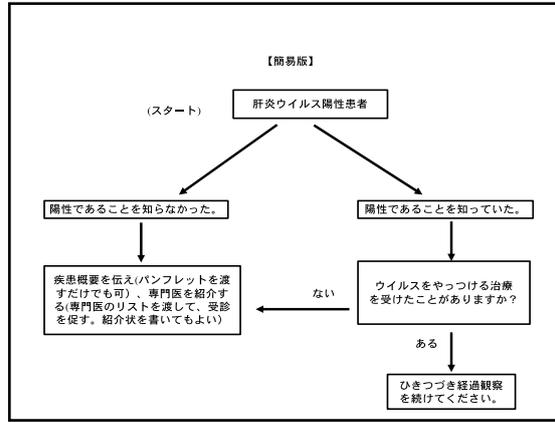
謹白

●ウイルス性肝炎患者の肝臓専門医療機関への受診促進について

【目的】

1. 肝炎医療コーディネーターを養成し、ウイルス肝炎治療が進歩していることを知っていただく
 コメディカル（看護師さん等）を対象に、当センターで1時間半程の講演会を開催し、ウイルス肝炎の基礎的な知識を学んでいただくことにより、福岡県認定の「肝炎医療コーディネーター」の資格を取得できます。福岡県からの委託事業ですので、県知事交付の認定証も取得することができます。また講習会に関する資料や活動マニュアル等を配布します。
2. ウイルス肝炎患者が肝臓（消化器）専門医に診療されているか把握し、専門医への紹介を促す
 手術前検査で肝炎ウイルス陽性の患者さんの肝炎の診療状況を把握し、眼科医師の許可のもと、「肝炎医療コーディネーター」が現在の肝炎医療の現状を簡単に説明し、治療やフォローを受けていなければ肝臓（消化器）専門医の紹介や受診を促します。
 また、可能であれば、その患者さんが専門医を受診したか否かのフォローも行っていただく。

で対応可能なレベルで受診勧奨を進めて行く予定である。また肝炎医療コーディネーターの資格の取得もお願いしたいと考えている。



【補足事項 Q&A】

Q. 内科で肝炎ウイルス陽性とわかっていて、なぜ改めて専門医への紹介が必要なのか。

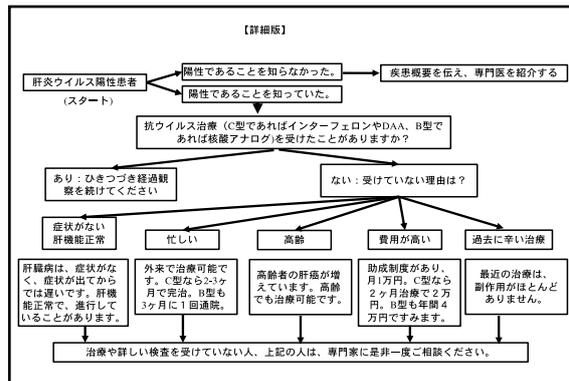
… 内科医師といえども全員が肝炎医療に精通しているわけではありません。高額な費用がかかるか、副作用が強いなど患者さんの間違った思い込みをそのままにしている例、肝機能異常が軽微であるためそのまま経過観察し肝臓に進展した例、HBV マーカーからの発癌予測を誤った例などがあります。内科医師が患者さんを専門医に紹介せず肝臓になってから紹介していただくことが一番の問題なのです。肝臓になってからでは遅いのです。そういった患者さんに新しい情報を吹き込む必要があります。肝臓を発症した患者さんへのアンケートでは、「医師からきちんと説明があれば治療を受けていた」と言われる方や「癌になるまで紹介などしてくれなかった」と言われる方もいました。また、適切な紹介がない場合、訴訟で医療側が敗訴した例もあります。

Q. なぜ肝炎医療コーディネーターを養成して行うのか。

… ひとつは、医師は手術に集中していただき、医師の負担を増やさないためです。もう一つは、眼科医がかかりつけの内科の先生（とくに面識のある医師同士など）を通り越して他の肝臓専門医に紹介するのは抵抗があると同っており、肝炎医療コーディネーターであれば第三者的に行動できると考えられるためです。

Q. 肝炎医療コーディネーターが責任を負われないか。

… 肝炎医療コーディネーターは、専門医への橋渡しであります。適切な基礎知識を知っていただくことは大切ですが、あくまで基本的な説明が良いと考え、分からないところは「専門医の先生に尋ねてください」と言っていた方がいいと思います。肝炎医療コーディネーターの一言が、治療につながり、感謝されている患者さんも多くいらっしゃいます。（別紙3のフローチャートのサンプルを参照ください。）



C. 研究結果 および D. 考察

研究結果は、来年度以降となるが、2021年4月頃に、眼科医会会員に趣意書を送り、ご協力いただける医療機関を絞り込む予定である。協力いただける医療機関には、下記のようなマニュアル（案：作成中で簡易版と詳細版がある）を配布し、各医療機関

E. 結論

福岡県筑後ブロック眼科医会において、肝炎ウイルス陽性患者の肝臓専門医への受診勧奨への手がかりを得ることができた。

F. 政策提言および実務活動

<政策提言>

厚生労働科学研究費・肝炎等克服政策研究事業「職域等も含めた肝炎ウイルス検査受検率向上と陽性者の効率的なフォローアップシステムの開発・実用化に向けた研究」(H29-R1)、「効率的な肝炎ウイルス検査陽性者フォローアップシステムの構築」(H26-H28)の班員として研究活動を行い、肝

臓専門医への受診の工夫などを提案してきた。

＜研究活動に関連した実務活動＞

上記の研究班活動に加えて、久留米大学消化器内科、久留米大学肝疾患相談支援センター、センター長として、肝炎に関する総合的な施策の推進活動に携わっている。更に福岡県の肝炎対策委員として、県肝炎ウイルス対策部署と連携し、肝炎撲滅対策に取り組んでいる。

G. 研究発表

1. 発表論文

なし

2. 学会発表

なし

3. その他

啓発活動

- * 井出達也：講演「C型肝炎：年間1万人」
市民公開講座、令和2年10月17日
主催：福岡県肝疾患相談支援センター

H. 知的財産権の出願・登録状況

1. 特許取得

なし

2. 実用新案登録

なし

3. その他

なし